

奇岩怪石が織りなす霊山は、国指定史跡名勝および県立自然公園に指定されています。独特の形をした岩々が神秘的な景観を創り出し、どこかこの世の風景ではないような儼かな気持ちになります。

自然の恵みのもとで暮らしていた昔の人は、現代に生きるわたしたち以上に



国司館跡



霊山城本丸跡

に敬虔な思いで、霊山を眺めていたことでしょう。

清和天皇の勅命を受けた比叡山延暦寺の座主円仁が、貞観元年（八五九）に開山したと伝えられています。円仁は当時、随一の高僧でしたが、民衆から円仁さんと親しまれる人柄で、それ

まで不忘山（忘れずの山）と呼ばれていたこの山を、お釈迦様が修行したインダの霊鷲山になぞらえて「霊山」と命名しました。

山頂には霊山寺が建立され、山王二十一社が勧請されました。峰々には大規模な寺院がつけられ、ふもとは三千六百にも及ぶ僧坊があったといま

す。奥州の山岳仏教の一大拠点として、四百七十有余年の長きにわたって隆盛をきわめ、平泉の北奥文化に対し、南奥文化の中心地として、遠く都にも評判が鳴り響いていたようです。当時は仏教が時代の先端をゆく文化でしたから、霊山は平泉と並ぶ文化の発信基地であったのです。

南北朝時代には、北畠顕家が南朝の義良親王（後の後村上天皇）を奉じて要害の地・霊山に移りましたが、顕家の死後、北朝に攻撃され全山焼き尽くされてしまいました。



北畠顕家立像

歴史の息吹を感じる

奇岩がそそり立つ霊山の山並みは、神々しいような独特の雰囲気があり、見る者に不思議な霊気を感じさせます。古来より人は霊山を霊峰として崇め、まちは山岳仏教の地として歴史を歩んできました。史跡名勝「霊山」で練り広げられてきた歴史絵巻の数々…。まちに残された歴史の息吹を探しに出かけてみましょう。

歴史の森へ
霊山町の歴史
History of Ryozen Town